

Title	着る勇気のない人でも楽しめる漢服体験
Sub Title	Hanfu experience for those who don't have the courage to wear Hanfu
Author	何, 悦(He, Yue) 稲蔭, 正彦(Inakage, Masahiko)
Publisher	慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科
Publication year	2019
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2019年度メディアデザイン学 第751号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40001001-00002019-0751

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

修士論文 2019年度

着る勇気のない人でも楽しめる漢服体験



慶應義塾大学
大学院メディアデザイン研究科

何悦

本論文は慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科に
修士(メディアデザイン学)授与の要件として提出した修士論文である。

何 悦

研究指導コミッティ：

稲蔭 正彦 教授 (主指導教員)

加藤 朗 教授 (副指導教員)

論文審査委員会：

稲蔭 正彦 教授 (主査)

加藤 朗 教授 (副査)

砂原 秀樹 教授 (副査)

修士論文 2019年度

着る勇気のない人でも楽しめる漢服体験

カテゴリ：デザイン

論文要旨

本研究では、中国の漢民族の伝統衣装「漢服」^{ハンフー}を着用したいが、その勇気がない人のために、プライベートな空間の中で漢服を楽しめる3段階の漢服着用体験をデザインした。本論文の第一章では、研究背景として、一部の人は漢服が好きで着用してみたいだが、着用する勇気がない現状について述べた。本研究はこれらの人をターゲットとした上で、漢服を着用していない理由について調査した結果、漢服を着用し易い環境を作らなければならないことが分かった。本研究では、ターゲットとなるユーザーに漢服を着用できるきっかけと、漢服を着用し易いプライベートな空間を提供し、以下の3段階に分けて体験をしてもらう。まず漢服を楽しみながら着用する体験から自己を表現したいという欲望を引き出し、次に顔を隠す状態で体験空間を外部と繋がり、徐々に漢服を着用している姿のまま他人と接触する自信を構築することができ、最終的に公共空間でも漢服を着用する勇気を持たせる。

キーワード：

デザイン思考, 中国伝統服装, 漢服, 自己表現, 盛り

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科

何 悦

Abstract of Master's Thesis of Academic Year 2019

Hanfu Experience for Those Who Don't Have the Courage to Wear Hanfu

Category: Design

Summary

In this research, I designed a three-stage experience of wearing Chinese clothing "Hanfu" in a private space for those who would like to wear Hanfu, but do not have the courage to do so. This study targeted these people and investigated the reasons why they did not wear Hanfu. As a result, it was found that it was necessary to create an environment where they could easily wear Hanfu. In this research, I provide the target users with the opportunity to wear Hanfu and a private space where they can easily wear it, and lead them to experience the following three stages. First of all, let the users enjoy wearing Hanfu and draw out the desire to express themselves. Then, connect the experience space to the outside, in order to make the users get used to wearing Hanfu. Finally, the users can wear Hanfu in public places.

Keywords:

Design Thinking, Chinese Traditional Clothing, Hanfu, Self Performance, Mori

Keio University Graduate School of Media Design

YUE HE

目 次

第1章 序論	1
1.1. 研究背景	1
1.1.1 「漢服」とは	1
1.1.2 「漢服」の発展	3
1.1.3 「漢服」の現状	5
1.2. 本研究の目的	6
1.3. 本論文の構成	10
第2章 関連研究	11
2.1. 漢服体験	11
2.1.1 大規模な漢服イベント	11
2.1.2 漢服体験店	12
2.1.3 ショッピングモールにおける漢服体験イベント	12
2.2. プライベートな空間を楽しむ体験	13
2.2.1 「シェア化粧室」	13
2.2.2 中国のカラオケボックス	14
2.3. 自信向上に関する関連事例	15
2.3.1 「盛り」の誕生-日本のプリクラ写真	15
2.3.2 海外の「盛り」-中国で美顔アプリが大人気	15
2.4. アイデンティティーを隠す行為による自己表現	16
2.4.1 日本のマスク現象	16
2.4.2 中国の顔隠すインフルエンサ	16
2.5. 本章のまとめ	17

第3章	コンセプト	19
3.1.	アイディエーション	19
3.1.1	事前調査	19
3.1.2	フィールドワーク	21
3.2.	コンセプトデザイン	26
3.2.1	漢服を楽しめる要素	27
3.2.2	漢服を楽しめる体験	31
3.2.3	三段階の体験	32
第4章	実装と検証	33
4.1.	空間の実装	33
4.2.	連動システムの実装	36
4.3.	デモンストレーション展示と実験検証	39
4.4.	実験の結果	40
4.4.1	被験者 A	40
4.4.2	被験者 B	41
4.4.3	被験者 C	42
4.4.4	被験者 D	43
4.5.	実験の考察	44
4.5.1	全体について	44
4.5.2	漢服の着付けや髪形のサポートについて	45
4.5.3	体験空間の環境について	45
4.5.4	ステップ1の写真を撮る過程について	46
4.5.5	ステップ2のインタラクションについて	47
4.5.6	ステップ3の二階に行く挑戦に関して	49
第5章	結論	50
5.1.	結論	50
5.2.	今後の展望	50
	謝辞	52

目次

1.1	よく着用される女性の漢服の様式	2
1.2	女性の曲裾袍	3
1.3	男性の漢服の様式の例	3
1.4	まだ漢服を着用しない理由	6
1.5	漢服を知る手段	7
2.1	シェア化粧室	13
2.2	中国のカラオケボックス	14
2.3	豚で顔を隠してネットライブ配信をする人	17
3.1	「以下のどの条件が満足したら、漢服を着る時の恥ずかしさや不愉快がなくなる」	20
3.2	「どの手段で、漢服を着る時の恥ずかしさや不愉快を解消したい」	21
3.3	お店の内装の Closet	22
3.4	お店の化粧台	23
3.5	一緒に写真を加工した時	23
3.6	カップル用マスク	24
3.7	イベントの会場	25
3.8	漢服姿のお母さん	26
3.9	中国の扇子で顔を隠す女性	28
3.10	ベールと組み合わせた笠で顔を隠す女性	28
3.11	竹を背景にする例	29
3.12	道具で漢服のイメージを引き立てる例	30
3.13	一周をまわして裾のフワフワ感をアピールしている少女	31

4.1	体験空間の様子	34
4.2	道具の様子1	34
4.3	道具の様子2	35
4.4	外から見る着替え室の様子	36
4.5	空間内部のインタラクションシステム	37
4.6	空間外部のインタラクションシステム	37
4.7	インタラクションの状態	38
4.8	鏡の状態	39
4.9	被験者 A : ステップ1	41
4.10	被験者 B : ステップ1	42
4.11	被験者 C : ステップ1	43
4.12	被験者 D : ステップ2	44
4.13	体験者がステップ1を楽しんでいた様子	46
4.14	ステップ2の様子	48

表 目 次

第 1 章 序

論

1.1. 研究背景

1.1.1 「漢服」とは

本論文における「漢服」の定義を明らかにするためには、他の語彙の概念をいくつか理解しなければならない。

まずは「漢民族」である。中国は 56 の民族からなる多民族国家である。その中でも「漢民族」は古くから中国の人口の圧倒的多数を占めている。「国語・晋語」によると、漢民族の前身は華夏族だったという。そのため、「漢民族」は「華夏族」とも呼ばれる。

漢民族を除いた他 55 民族を総称して「少数民族」と呼ぶ。

中国の服装史の中に、少数民族に対する漢民族の服装があり、漢王朝時代の服装もある。単に「漢服」を呼ぶと、意味と様式の上で概念がはっきりしていない、あるいは一定の局限性がある [1]。「漢服」とは、現在知られている中国語の文献によると、中国の歴史上の漢の時代の衣服を指し、または、漢民族を代表することができる「民族衣装」であると考えられている [2]。

しかし、「漢服」の由来を考えると、漢の王朝の影響力が強かったことから、次第に「華夏族の人」を「漢人」と呼ぶようになった。漢人が胡人（当時の他の民族の人）の伝統衣装を「胡服」と呼ぶように、漢人の伝統衣装には「漢服」という名前がついていた。元々は他の民族が漢人の伝統的な服飾を呼ぶ言葉だったが、徐々に漢人の自己認識の文化記号となっていた。「漢服」という言葉の基本的な意味も定着しており、「漢民族の伝統衣装」になった。[3]

そのため、本論文における「漢服」は「漢の時代の衣装」ではなく、ただ、「漢民族の伝統衣装」の意味として使っていく。

中国では、それぞれの民族が独自の伝統衣装を持っている。しかし、漢民族の伝統衣装の様式は時代や地域に応じて異なっており、現在まで残っていた漢服の様式は非常に多様化している。どの様式を公式の漢服にするのはまだ議論が多い。しかし、世界の人によく知られた「チャイナドレス」は「漢服」ではない。

女式漢服の例を挙げると、唐の時代に一番流行していた胸まで式襦裙、または、明の時代に人気だったはい子や馬面裙などのような様式がある。次の図(図 1.1)¹の左から右へ順にははい子、襖裙、腰までの対襟襦裙、胸までの対襟襦裙、半臂と重ね襟の襦裙である。そして、もう一種の曲裾袍も女式漢服の一種である。(図 1.2)²



図 1.1 よく着用される女性の漢服の様式

1 [出典]<http://static.aihanfu.net/uploadfile/2014/1011/20141011105112305>

2 [出典]<http://static.aihanfu.net/uploadfile/2014/1011/20141011105112100>



図 1.2 女性の曲裾袍

男式漢服の様式の例として、図 (図 1.3)³の左から右へ順には曲裾袍、直裾袍 (戦国時代の深衣)、襴衫、丸襟袍衫、直とつ、直身。



図 1.3 男性の漢服の様式の例

1.1.2 「漢服」の発展

歴史の記載によると、漢服は紀元前 21 世紀に起源し、数千年の変遷を経た。しかし、清朝時代、漢民族の伝統衣装は一度の大きな変革を経験した。漢民族の共

3 [出典] 漢服、古代の男性の服装ガイド
<https://m.91ddcc.com/t/89844>

感を弱め、中国全土を統治するために、少数民族の満州族が創建した清王朝は漢民族の人々に髪を剃らせ、服を替えさせ、「衣冠は一律に本朝廷の制度に従う」とした。そして、「依然として明朝の制度を残し、本朝廷の制度に従わない者は全部殺す」とした。清時代の服装は、満州族が強制的に推し進めた遊牧民族の服装であり、中国の服装変遷史の中でも変化のかなり大きかった一時期で、多くの遊牧民族の服の形と装飾を残した [4]。

清朝時代の終わりまで、漢人と満人の服装はほとんど境界線がなかった。民国時代、中国の男性は、長衣や馬織や中山服を着用し、女性は袷裙やチャイナドレスを着ていた。更に、当時外来文化の衝撃を受け、洋服も中国で流行し始めた。その後、新中国が成立し、新政府が全国で「レーニン服」「人民服」を推進し始め、現代デザインの洋装も次々に登場した [4]。

以上の変遷史により、多くの学者は全体的に漢服は清朝で次第に消滅したと考えている [5]。清朝の200年以上の影響を受けた漢民族の男子服は基本的に満州族の伝統衣装を参考としていた。チャイナドレス、長衣、馬織はすべて満州族を主体とした民族服飾の改良と発展であり、漢民族の伝統的な民族服飾ではない [6]。

「服装は一つの民族の文化の象徴であり、人々のイデオロギーと精神的なイメージを体験したのものである。」 [4] 中国が強大になるにつれて、漢民族の人々は民族アイデンティティを求める欲求が強く強くなっている。2002年(平成14年)頃、当時一般的に「唐装」が漢服とされていた状況に合わせ、一部の漢服を普及させるようになり、清以前の漢民族の伝統衣装の復元に尽力した。それから、漢服復興運動が始まった。

漢服復興運動の発展に伴い、疑問の声が多数寄せられている。漢服が歴史に淘汰された以上、復興する必要はあるのか。今はもう現代社会だ、漢服を復興することは古代に戻ることはないか。漢民族の伝統衣装はチャイナドレスやチャイナスーツではないか。

歴史など多くの理由から、漢服に対してまだ不明な点が多い。漢服に身を投じた人の中でも疑問視され始めていた。日常生活でも、いつも、どこでも漢服を着るべきなのか。一体どの様式の漢服が公式の漢服と言えるのか。現在作られた漢服は本当に伝統と同じのような正しい仕立てなのか。現在の漢服実は根拠のない

「偽漢服」ではないか。⁴

漢服復興運動は、絶えず論争と批判の中で、数多くの疑問を解き明かし、徐々に方向を模索してきた。そして、今の中国の街では、漢服を着た若者が増えている。

1.1.3 「漢服」の現状

そして、現在、中国人の漢服着用に対する態度について、2018年11月17日から、2018年12月31日までに、ネットで第一回目アンケートを行った。参加者は各年齢、地域、性別、民族で、合計68人。⁵

「漢服」に対する誤解を避けるために、アンケートでは、漢服の基礎知識を簡単に説明した。68人中、漢服を着用する経験がない人は58.8%（40人）を占めている。その中、漢服を着用する経験はないだが、漢服を着用してみたいと答えた人は22人。また、回答者は自分の民族の伝統衣装を着て人通りの多い場所や伝統的な祝日に出席することに対して積極的な見方をしている人は69.2%を占めている。

データから、以下の結果が分かった。まだ漢服を着たことがない中国人はまだ約半分以上を占めている。その中、漢服を着てみたい人は約半分以上を占めている。つまり、一部の人は、漢服を着用したいけど、まだ漢服を着用したことがない。

この現状に至る原因を明らかにするために、みんなにまだ漢服を着用しない理由について質問をした。結果として、「周りに合わないから、恥ずかしいと感じる」と答えた人が一番多い。(図 1.4)

4 漢服：文化復興は群魔乱舞？答えは精神追求。
<https://www.bilibili.com/read/cv225098/>

5 「漢服」の普及状況調査
<https://wj.qq.com/s2/2899227/ab62>

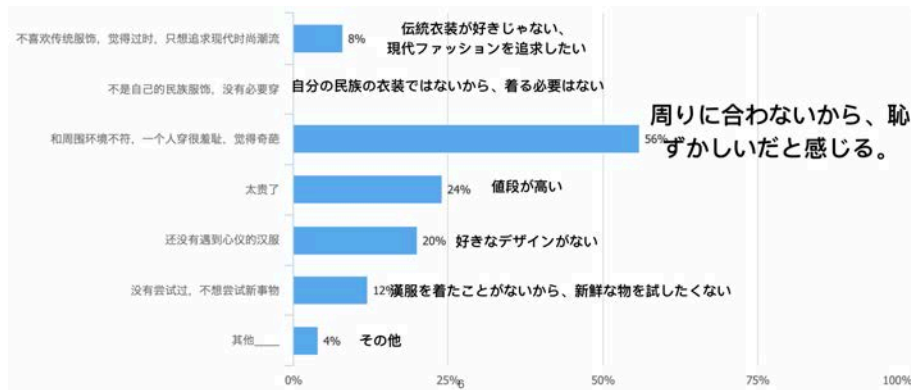


図 1.4 まだ漢服を着用しない理由

また、「値段が高い」「好きなデザインがない」「着ると不便がある」などの理由もあるけど、解決方法として、中国のタオバオで現代審美によって改良した漢服や安い漢服も販売しているし、私の専攻でもないのだから、本研究は考慮しないことにする。

そして、「その他」の選択肢の中にも、「漢服を着ると多くの人に批判されるのが怖いから漢服を着ない」という答えもある。

1.2. 本研究の目的

現在、漢服が好き、漢服を着用したいけど、まだ漢服を着用しない人にとって、「恥ずかしい」「批判されるのが怖い」などのメンタル面での問題を解決する有効な方法はまだ少ない。

本研究のターゲットは漢服を着用したいけど、まだ漢服を着用する勇気がない人。そして、以上の現状を踏まえ、本研究は漢服を着用する行為によるメンタル面での問題を解決するために、漢服体験をデザインする。

漢服が好きだけど、漢服を着る勇気がない人の心理をより深く知るために、4人のターゲットに、漢服を着用しない理由の中で心理にかかる負担は何について個人インタビューを行った。

女性 A:「目たつになりたくない。そもそも、他人の前で自己表現をしたくない。他の人に注目されたくない。他人に注目されると緊張する。」

女性 B:「普段着と比べて変な衣装を着るなら、他人に怪しい風に見られるので、嫌だ。コスプレや映画撮影のように見られるから恥ずかしい。そして、漢服より、洋服の方が着やすいし、日常の中でなかなか漢服を着る理由はないから、わざわざ漢服を着ると他人に誤解されるので、恥ずかしい。」

女性 C:「結構漢服を着てみたいだが、ネットのコメントを見て、漢服を着ると厳しく批判されよう。怖いし、面倒だから、漢服を着るのをやめた。」

男性 A:「他人と違うスタイルの衣装を着ると違和感がある。目立つになりたくない。周りの人と同じ見た目でいたい。」

以上の調査によると、次の二つの問題が得られる。

1、漢服は歴史上の事情から、日常生活の中で徐々に人々の視線から離れていった。現在、漢服に対する印象に関して、多くの方は映像作品やネットの情報を参考しているから(図 1.5)、日常と遠く離れているので、生活の中ではほぼ漢服を着用しない。

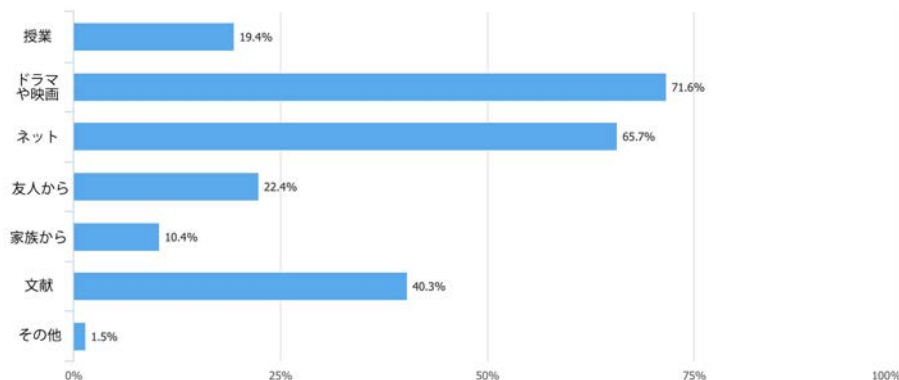


図 1.5 漢服を知る手段

そのため、「漢服」は「奇装」や「コスチューム」に等しいという概念が多くの中国人の心に根付いている。また、多くの漢服経験者も「よく街の人に映画撮影しているかと誤解される。」と指摘している。そして、人は生活の中で漢服に触れる機会が少なく、新しいものや環境への適応が遅い傾向があるため、漢服を着用させることも難しい。更に、発展が遅れている地域では、漢服復興の流れについていけない。これらの人々は漢服を着用する機会にほとんど触れることができず、漢服を着用することに対する意識はまだ呼び起こされていない。

2、メンタルが敏感で、社会の中で目たつことになることは集団から排除される危険な立場になることだと認識し、褒められることより、批判される可能性が高いだと考え、自信が不足しているため、漢服を着用する勇気がない。これらの一部の人は漢服自体が美しい、漢服を着用する行為を支持すべきだと思っているだとしても、周囲の環境、周囲の人の見方、自分の外見のイメージなどを考慮した結果、自分は漢服を着用しない。また、多くの人に見られたくないのは自己表現を好まない心理の表現である。

漢服を着用したいけど、着用する勇気がない人は人通りの多い場所で自信を持って大胆に漢服を着て他人に注目されたい人と対照的だ。この2種類の人は自己表現欲の両極だ。後者はいつでも自分を表現したくて、他人の嫉妬を喚起したい。前者、つまり本研究のターゲットは自己表現欲を抑えている。

人の成長過程の中、表現欲は本来乳幼児の生まれつきの心理的ニーズであり、誰もが賞賛され、喝采され、肯定されることを渴望している。例えば、新しく作った積み木の形をお母さんの前に持って行って、母の賞賛を渴望している。母の賞賛によって、この満足を得る時、勝任感と自信を感じて、更に喜んで自分を表現したくなる。逆に、子供の成果を貶めていると、子供は落ち込んだり、落胆したりする。何度も繰り返した後、表現欲が抑えられる可能性がある。突然、人に注目され、期待されると、後者の子供にとって、喚起するのは満足ではなく、焦慮だ。彼らにとって、自分を表現するのは危険なことであり、実は幼い頃の傷は潜在意識の奥に残っている。⁶

6 ユリンシン. 注目されるのが怖くて、隠すのが好きなのはどんな心理に関する分析.
<https://www.zhihu.com/question/35982719/answer/65843598>

また、社会制約は、自己表現の欲望を抑制させているという場合もある。毎日言いたいことを言い、したいことができれば、これほど素晴らしい人生はない。しかし、社会的動物として生きなければならないという制約が、それを妨げている。自己抑制、つまり、我慢は、社会生活をする上で必要ではある。問題は、その程度である。あまりに強く理不尽な我慢をさせられれば、また、それが長い間続けば、いずれは暴発する。しかし、誰もが全く我慢しなくなれば、今度は、社会が混乱してしまう。自己表現には、こうした自己抑制を一時的にはずして、自己解放するという面がある。体を動かしたり、大声を上げたり、といったレベルの自己表現から、書斎で一人、趣味に没頭する、日記に思いのたけを書きなぐる、といったレベルの自己表現まで、とりあえず、自己抑制を強いられる日常から自己の解放を図るねらいがある。我慢にも程がある。[7]

以上の分析からも、表現欲を抑えた人の内面にも強い表現欲求があり、その欲求だけでは直接的な満足が得られず、代替的な満足が求められている可能性があることが分かった。様々な理由で表現欲を満たしていない人にとって、あえて自分を表現する人を見ると、強く惹かれるかもしれない。それは、他人が自分のやりたくてできないことをしているからだ。⁷

以上の分析によって、漢服が好き、漢服を着用したいけど勇気がない人に自己意思で漢服を着用させ、満足させるために、漢服を着用し易い環境を作らなければならない。

「心理誘導技術」[8] 著書に以下の理論が書いてある。「集団規範には規則や法令など成文に規定されているものがあり、また集団構成員の間では風俗や習慣などの一般的なものが定められている。」また、「集団規範の形成は、随従などの心理的要因の影響を受けている。グループのメンバー間は互いに暗示、模倣、感染などの相互作用を通じて、互いに接近し、収束する類化過程を発生し、次第に群體規範を形成した。」

もし、漢服を着ることが集団メンバーの間で定められた風俗や習慣などの行為になったら、漢服を着用する勇気がない人に漢服を着用する習慣を慣れるには、

7 ユリンシン. 注目されるのが怖くて、隠すのが好きなのはどんな心理に関する分析.

<https://www.zhihu.com/question/35982719/answer/65843598>

漢服を好む人の力で動かす必要がある。同時に、漢服を着用する人が増えた後、従衆心理によって、漢服を着用する集団規範が形成される。

そこで、本研究の目的は、前述した漢服が好きで着用してみたいだが、着用する勇気がない人のために、メンタルに負担がかからないプライベートな空間で漢服を着用するきっかけを提供し、漢服を楽しめる体験によって、漢服を着続けて自己を表現したいという考えが生まれ、徐々に漢服を着用する行為に慣れ、そして、漢服を着用している姿のまま他人と接することができる自信を構築し、最終的に公衆の場で漢服を着用しても構わないような効果を達成する。

1.3. 本論文の構成

本章では、序論として研究の背景と目的を述べた。第二章では本研究の関連研究として、世の中の様々な漢服体験の事例と自信向上に関わる事例について述べる。第三章では、コンセプトの提案とデザインを行う。第四章では、コンセプトに基づいたプロトタイプの実装とそれをを用いた KMD Forum2019⁸での実験について述べる。第五章では、本論文での結論と今後の展望を述べる。

8 KMD Forum2019
<http://forum0.kmd.keio.ac.jp/2019/>

第 2 章

関 連 研 究

2.1. 漢服体験

2.1.1 大規模な漢服イベント

近年、中国全国各地の団体がより多くの人に漢服を着用してもらうために、漢服成人式、漢服花見祭り、漢服七夕祭りなどの漢民族風俗イベントと、文化センターにおける漢服交流会、漢服ファッションショーなどのイベントを開催し、漢服愛好家に交流できる場を提供する。また、多くの博物館もより多くの人に漢服の知識を宣伝するために、漢服知識講座を開催し、参加者に漢服を着用して参加することを推奨する。

そして、漢服愛好家の中で、一つの大人気イベントは「西塘漢服文化祭」だ。「西塘漢服文化祭」¹は漢服文化活動であり、中華伝統服飾文化、礼儀文化の発揚と伝承を根本目的とし、中華伝統服飾と伝統礼儀文化の大規模な表現である。毎年10月末から11月初めまで、沢山の漢服愛好家が浙江省嘉興市嘉善県西塘古鎮で集まってこのイベントに参加する。

しかし、漢服を着用しない人は漢服を買わないし、漢服イベントにも行かない。行きたいだとしても、どこで着替えればよいか分からないなどの問題がある。更に、人が多いので、漢服を着用すると見知らぬ人に注目される可能性が高いので自己表現欲を抑える人はイベントに参加する可能性が低いし、参加しても漢服を着用しない。

1 漢服を着て西塘に行く

<https://kknews.cc/travel/gp6bpr1.html>

2.1.2 漢服体験店

漢服復興運動の進展に伴い、全国各地、更に、海外の日本東京においても、漢服体験写真館の数が増えている。これらの漢服体験館は、日本の着物体験サービスのように、衣装のアクセサリーの選択から、漢服の着方、髪型メイク、さらには外出や撮影、服装のレンタルまでサービスを提供する。また、漢服の着用を体験しながら、先生に中国の伝統的な芸を教えてもらい、中国の伝統楽器を学ぶ授業もある。

漢服体験店は見知らぬ人に注目されないプライベートな場所だが、家の近くに漢服体験店がない状況が多い。漢服を着用しない人がわざわざ遠い店に行く可能性が低い。更に、漢服を着用しない人にとって、休日なら他の娯楽があるので、強い漢服体験の願望がないと漢服体験店は考慮しない、行っても時間と値段の次第で判断する。

2.1.3 ショッピングモールにおける漢服体験イベント

現在、中国の伝統的な祝日にも、多くのデパートで一定の金額を消費すれば無料で漢服を体験したり、または、有料で漢服を体験できるイベントが開催されている。イベント現場では、写真撮影ができ、扇子作りを体験し、素敵なプレゼントを受け取ることもできる。

この形式のイベントは距離の問題を解決したが、人に見られるし、更に、漢服の美しさを引き立てる環境ではないので、漢服を着用して写真を撮るとより恥ずかしく感じる。

2.2. プライベートな空間を楽しむ体験

2.2.1 「シェア化粧室」

中国の湖北省（Hubei）武漢市（Wuhan）のショッピングモール内に、薄ピンク色の「シェア化粧室」²(図 2.1)³が登場し、多くの女性らが体験した。



図 2.1 シェア化粧室

この化粧室は、小さなカラオケボックスを思わせる、ガラス張りの密閉空間。広さは約2平方メートル。こぎれいな内部には鏡、椅子、ゴミ箱とカメラが設置されている。また、備え付けの化粧品の多くはクリスチャン・ディオール（Christian Dior）やエスティローダー（Estee Lauder）など海外有名ブランド品。

シェア化粧室外側のQRコードをスキャンし、利用時間を設定すると入室できる。この際、透明なガラスが自動的に曇りガラスに変化し、外からの視界をさえぎる仕組みで、プライバシーも万全だ。シェア化粧室の利用時間は最長で45分、利用料は58元（約930円）だ。

2 ピンク色の「シェア化粧室」、利用時は曇りガラスに 武漢
<https://www.afpbb.com/articles/-/3206520>

3 [出典]<http://j.people.com.cn/n3/2019/0110/c94475-9536655-2.html>

2.2.2 中国のカラオケボックス

日本ではかなり前から「おひとりさま」ビジネスが盛んだが、中国でも「1人カラオケ」が静かに流行中だ。正確には2~3人まで利用できる小さな無人カラオケボックスのことだが、「気軽にいつでも楽しめる」として人気を集め、都市部を中心に急速に普及しつつある。内側にはカーテンもあり、閉めることもできるが、ガラス張りだと解放感があり、狭さを感じないせいか、どのカラオケボックスもほぼそのまま使用している人が多いようだ。監視カメラもばっちりついているので、セキュリティ的にも問題ない。⁴(図2.2)⁵



図 2.2 中国のカラオケボックス

4 中国のカラオケボックスは無人ビジネスのダークホース？

<https://wedge.ismedia.jp/articles/-/13148>

5 [出典]<https://wedge.ismedia.jp/articles/-/13148>

2.3. 自信向上に関する関連事例

2.3.1 「盛り」の誕生-日本のプリクラ写真

自信向上と自己表現育成の体験の中で、日本で盛んに行われている「盛り」文化が最も典型的である。

「盛り」とは、1990年代半ば以後のデジタルテクノロジーの発展により出現した「バーチャル空間」において、日本の女の子の間に広がった、ビジュアルコミュニケーションの行動である。化粧、服装、ライフスタイルなどの自分自身を取り巻くビジュアルを、「コミュニティごと」の、常に「変化」する基準に従って、「可逆」に作り、コミュニケーションすること。その行動の背景にあるのは、コミュニティとの「協調」や、社会に対する「反抗」、常に新しいことを求める「好奇心」などの美意識と考えられる。[9]

日本の mori 文化の発展に伴い、「ペリクラ」が登場した。その発展は、日本の女の子たちの美の追求の変遷を体現している。誕生時のプリクラは撮影した写真をほぼそのまま印刷する装置だったが、すぐに光学処理とデジタル処理を組み合わせることで画像処理が行われるようになった。以後、メーカーにおける技術革新と、女の子コミュニティにおける「盛り」の基準の変化により、画像処理の内容は変化してきた。[9]

2.3.2 海外の「盛り」-中国で美顔アプリが大人気

SNS の登場は、「盛り」に影響を与えた。「ビジュアル型 SNS」であるインスタグラムは、スマートフォンのカメラや画像処理ソフトの向上、翻訳機能などの技術革新と相まって、「盛り」の文化を日本から世界へと広げ始めている。[9]

中国では、「Meitu」⁶を皮切りに、「Tiktok」⁷などのアプリが次々に現れ、人々の行動に影響を与えている。漢服の復興運動によって、幾つのアプリは伝統的な髪

6 Meitu – 美顔自撮り！写真編集&加工

<https://apps.apple.com/jp/app/meitu-美顔自撮り-写真編集-加工/id416048305>

7 https://www.tiktok.com/zh_Hant/

形やメイクのビジュアル効果も提供している。

2.4. アイデンティティを隠す行為による自己表現

2.4.1 日本のマスク現象

日本では美を追求した盛り文化が盛んに行われている一方で、マスクを着用する現象が非常に多く見られる。自分のイメージが完璧ではないと思っている女の子もいるので、マスクで顔を隠したり、自分の顔を見られたいしないようにしたり、自分のアルティティの認識度を下げたりすることで、自分の羞恥感を下げたり、プライドを守ったりすることができる。この心理から、友達と一緒に同じデザインのマスクをつけて自分の個性をアピールし、友達との一体感を誓うという心理が生まれてきた。このマスクをする行為は、自分の羞恥感を下げて、自分のイメージのプライバシーを守るだけではなく、内面的な個性を表現する自己表現行為でもある。[7]

2.4.2 中国の顔隠すインフルエンサ

中国では、美顔アプリ加工技術の発展に伴い、撮影された写真は本人とほぼ別人のようだという指摘が増えてきている。また、インフルエンサという職業が現れることにより、多くの人が美顔アプリの効果で「美人」「イケメン」としてファンを魅了してきましたが、本当の姿が見られたら、「詐欺行為」と指摘されることも多い。同時に、マンネリの「美顔」は大衆に審美疲労を発生させている。この現状が続く以上、papi ちゃん⁸、山下智博⁹を代表とする才能豊かなインフルエンサは、優れた作品内容と親切でリアルな顔で人気を集め始めている。そこで、大衆はインフルエンサという職業にとって、外見の必要性を見直した。さらに、イ

8 Papi の Youtube

https://www.youtube.com/channel/UCgHXsynhD8GxbFcN1PEn-_w

9 山下智博の Youtube

<https://www.youtube.com/channel/UCN6u018---oEFsLv6YHHcmA> 博

ンフルエンサはネット上の暴力を受け、ちょっとした不注意でプライバシーが侵害されることもある。そのため、自分のアイデンティティーの認識度を下げ、良質な内容でインフルエンサとして活動する人が増えてきている。(図 2.3)¹⁰



図 2.3 豚で顔を隠してネットライブ配信をする人

2.5. 本章のまとめ

本章では、本研究に関連すると考えられるいくつかの研究と先行事例について述べた。

まずは、大型漢服文化イベントを紹介した。そして、室内漢服体験館を紹介した。現在の漢服体験館は写真館だけではなく、良質なサービスを形成しており、漢服体験館業界は徐々に整備と繁栄に向かっている。

¹⁰ [出典]<https://v.douyin.com/pocYdH/>

その後、漢服体験の事例以外にも、プライベートな空間を楽しめる体験として、「シェア化粧室」と「中国のカラオケボックス」を紹介した。

また、自信向上と自己表現に関する事例として、日本の「盛り」文化とそれに続く中国の美顔アプリの流行現象を紹介した。

最後に、顔の特徴を隠すことにより、自己認識度を低下させるとともに、自己表現を満足させた事例を紹介した。顔の特徴が隠されているからこそ、普段はできないことを敢えてして、普段は言えないことをあえて言えるようになった。

以上の関連調査を踏まえ、第三章では、前述した漢服が好き、漢服を着用したいけれども、漢服を着用する勇気がない人のために、プライベートな漢服体験をデザインし、コンセプトについて述べる。

第 3 章

コンセプト

3.1. アイディエーション

3.1.1 事前調査

アイディエーションを行うための事前調査として、2019年5月24日から、2019年5月26日までにネットで第二回目のアンケート調査を行った。¹ 今回の参加者は各年齢、地域、性別、民族で、合計75人。ターゲットの心理と需要をより知るために、アンケートの中で、「以下のどの条件が満足したら、漢服を着る時の恥ずかしさや不愉快がなくなる」について調べた、そして、以下の結果があった。(図3.1) :

1 現代大衆の漢服に対する観念調査
<https://www.wjx.cn/report/40111890.aspx>

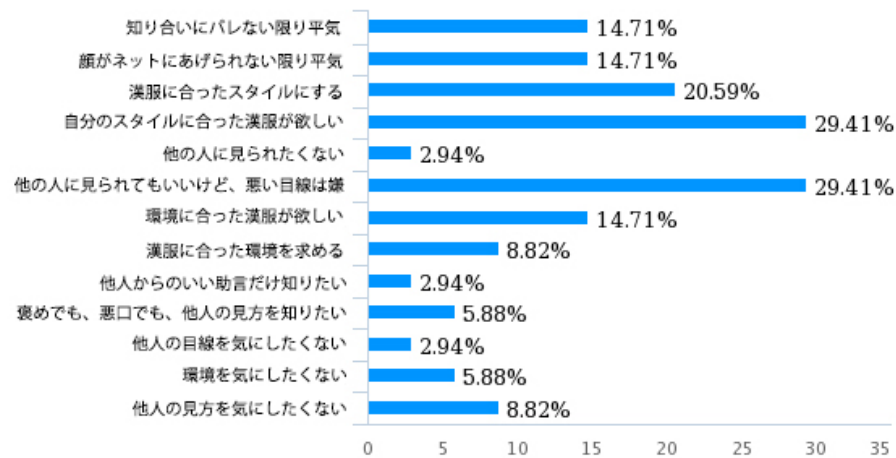


図 3.1 「以下のどの条件が満足したら、漢服を着る時の恥ずかしさや不愉快がなくなる」

その結果は、「漢服を着るなら、他人に見られてもいいけど、批判的な目線や冷たい目線は嫌だ」という答えが一番多い。このデータから、多くの人は自己保護を求めている心理があることが分かる。

前述したように、「自分のスタイルに合った漢服が欲しい」を選択した人も多いだが、服のデザインに関する問題のため、本論文では考慮しない。

そして、更なる質問を行った。大衆がどの手段で、漢服を着る時の恥ずかしさや不愉快を解消したいのかを調べたところ、以下のような結果になった(図 3.2)：

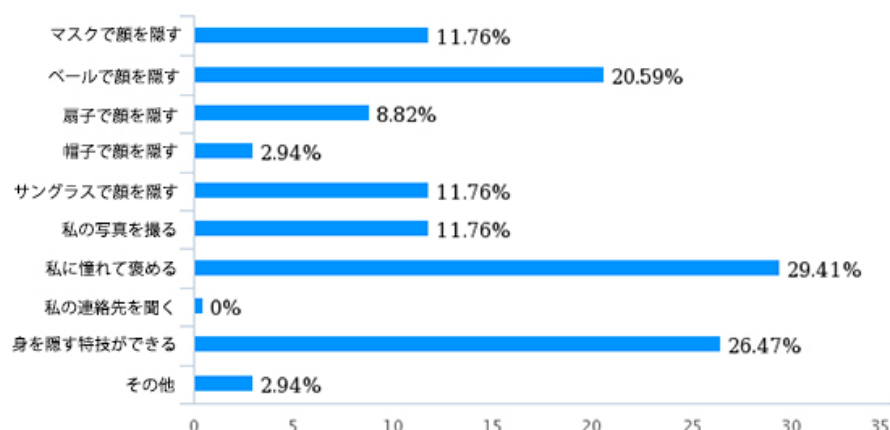


図 3.2 「どの手段で、漢服を着る時の恥ずかしさや不愉快を解消したい」

結果として、「私に憧れて褒める」、「身を隠す特技ができる」、「ベールで顔を隠す」この三つの答えを選ぶ人数が結構多い。この結果は、前述したように、表現欲を抑えた人の内面にも強い表現欲求があることを検証した。そして、多数の人は自己保護をする上で自己を表現したいということが分かる。

3.1.2 フィールドワーク

事前調査をもとに、2019年6月16日から、18日までエリクソンとIKEAと三日間のフィールドワークを行った。

フィールドワーク期間中、本研究に関連する体験は主にプリクラの写真撮影と、渋谷で団体で行動している人たちが一緒にマスクを着用して歩いているという、渋谷マスク現象の観察である。

まず、プリクラ写真撮影のお店では(図3.3)、写真を撮る設備があるだけでなく、お客様のための凝った化粧台や鏡も用意されており(図3.4)、写真を撮る前にお客様がメイク直しをできる。プリクラの撮影空間は外からは内部が見えないような造りになっており、撮影時に外を気にすることなく、みんなが楽しそうに変な表情をすることができた。全体の中で最も重要なのは、被撮影者同士のインタ

ラクティブな過程だということがわかった。写真がどんなにモデルのように美しいかではなく、みんなで写真を撮って、お気に入りの写真を選び加工をする(図 3.5)²。撮影時には、友達同士でインタラクティブに親密な動作をすることができ、写真が完成したらお互いを飾り、最後に写真をプリントした後に写真を裁断して写真を配布することという一連の流れがプリクラで最も魅了的な部分である。



図 3.3 お店の内装の Closet

2 [出典]PLAY フィールドワークの共有写真。



図 3.4 お店の化粧台

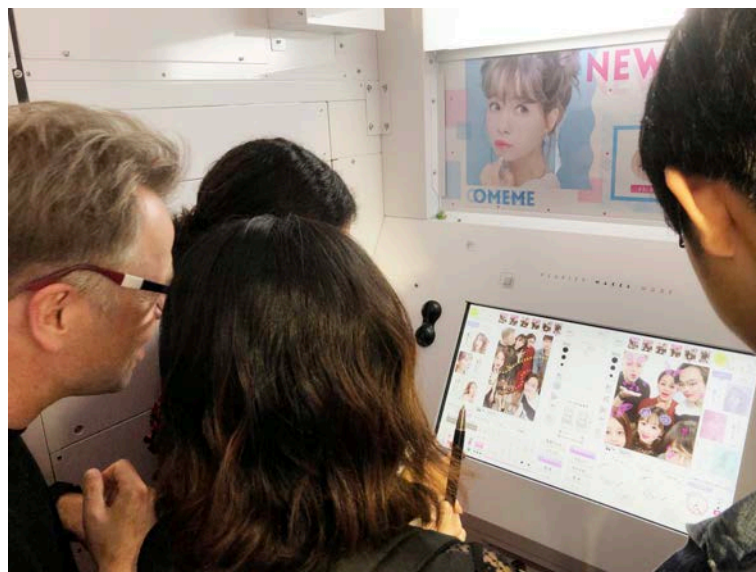


図 3.5 一緒に写真を加工した時

そして、渋谷にあるマスク専門店に行った。そこにはたくさんのタイプ、かわいいデザイン、そしてデフォルメされたデザインのマスクがあった。店員の方からお話を伺うと、グループやカップルの方達は、同じデザインだが、色違いのマスクを選ぶ傾向があるという。そうすることで、みんなが1つのグループであることを表すことができるし、それぞれの人の違いを示すことができるからである。(図 3.6)



図 3.6 カップル用マスク

2019年9月に、母と一緒に天津の伊勢丹で開催されていた中秋の漢服体験イベントに行った。伊勢丹でこのようなイベントがあることは事前に知らなかった。デパートに入っただけで、漢服体験コーナーの入り口にある光でライトアップされていた金色のアクセサリに目を引いた。

この体験はまず自分の好きな漢服を選んで着用することができる。隣には着替え室。そして、化粧コーナーもある。化粧品は全てデパートで買えるブランドが提供したもの。体験コーナーには古典的な中国式橋と陳列された中国の特色ある赤提灯と紙傘がある。体験コーナーでは写真を撮るだけでなく、中国の伝統娯楽「投壺」と「提灯の謎解き」を体験することもできる。また、お客様は扇子作りも体験することができ、作った扇子を持って帰ることもできる。(図 3.7)。



図 3.7 イベントの会場

普段の母は写真館で写真を撮ることも全然しない。今回、お母さんが私に説得され、体験スペースに陳列されていた漢服を見て、綺麗だと思うので、一回漢服を着用してみようと決めた。

まず自分好みの漢服を選ぶこと。母は明るい色が好きだけど、年齢を考慮して、服のデザインが荘重に見えるような漢服を選んだ。母親は赤い漢服を気に入ったが、女性スタッフから、実はその服の柄が男性を象徴するものだったため、最後に他の女性に合った漢服にした。そして、漢服の雰囲気を引き立てるアクセサリを選び、着替えをした後、スタッフに化粧を手伝ってもらった。撮影までの流れは順調だった。

そして、私も好きな漢服を選んですぐ着替えをした。その後、私がえお母さんの撮影を担当した。最初に、お母さんは初めて漢服を着用することで、ちょっと新鮮感があって、ワクワクしていたが、ポーズに困っていた。私の漢服経験が多いので、お母さんにポーズの指導をした。お母さんは自分が歳を取ってるから、顔のシワを心配していたが、写真の雰囲気がいいから、自分が美しく見えてきて、(図 3.8) ちょっと嬉しくなった。撮影場所が開放的で周囲のデパートも見えるので、



図 3.8 漢服姿のお母さん

写真を撮る際に適切な角度で撮影するために結構時間をかかった。そして、母親は体験を満喫したし、撮影の時間も長かったので、体験を終わらせた。

このイベントを観察した結果、参加者は20代の女性が多かった。

3.2. コンセプトデザイン

本研究は、漢服を着用したいが、その勇気がない人のために、プライベートな空間の中で漢服を楽しめる3段階の漢服着用体験をデザインする。

本研究では、ターゲットとなるユーザーに漢服を着用できるきっかけと、漢服を着用し易いプライベートな空間を提供し、以下の3段階に分けて体験をしてもらう。

まず漢服を楽しみながら着用する体験から自己を表現したいという欲望を引き出し、次に顔を隠す状態で体験空間を外部と繋がり、徐々に漢服を着用している姿のままで他人と接触する自信を構築することができ、最終的に公共空間でも漢服を着用する勇気を持たせる。

3.2.1 漢服を楽しめる要素

ターゲットの心理分析と事前調査をした上で、漢服を楽しめる要素として、以下のことが分かった。

- 1、顔を隠す行為、つまり、自己保護による安心感
- 2、漢服のイメージに合った環境
- 3、賛美されること
- 4、自己の美的感覚を向上
- 5、漢服愛好者との交流

これらの考え考慮しつつ、大量の漢服写真例を参考に分析することで、以下の解決策をまとめた。

漢服写真の中では紙傘、中国の扇子などの小道具を用いて一部の顔や顔全体を隠す例が多い。また、ベールや珠簾、笠などの道具も同じ効果がある。そして、これらの道具は顔を隠すだけでなく、漢服のイメージを引き立て、全体の美しさを高めることもできる。(図 3.9)³ (図 3.10)⁴

3 [出典]<https://flic.kr/p/2gjAHdt>

4 [出典]<https://flic.kr/p/2hdNuSR>



図 3.9 中国の扇子で顔を隠す女性



図 3.10 ベールと組み合わせた笠で顔を隠す女性

そして、漢服のイメージに合わせた環境には中国の古典式建築風格や自然風景がとても重要である。竹、松柏、蓮花などの上品な植物がよく使われている。これらの植物は、中国では古くから高潔な人格を象徴しており、中国古代の名画にもよく描かれる植物であり、歴代の詩人にもよく賛美される植物でもある。(図 3.11)



図 3.11 竹を背景にする例

また、漢服のイメージを引き立てるために、中国の伝統楽器や書道、囲碁などの道具もよく使われている。(図 3.12)⁵

5 [出典]<https://flic.kr/p/2gjAfEC>



図 3.12 道具で漢服のイメージを引き立てる例

自己の美的感覚を向上させるために、鏡が重要な道具である。人は常に自分の外見をチェックして、綺麗な外見から自己満足感を得る。そして、漢服の「飄逸感」と漢服の美しい雰囲気を引き立てるポーズも重要な条件である。広い袖や裾のフワフワ感が、視覚的な美しさを醸し出しており、人に上品な印象を与える。(図 3.13)



図 3.13 一周をまわして裾のフワフワ感をアピールしている少女

賛美されることでも、漢服愛好者との交流でも、人とのインタラクションが大事である。かわいい動物のイメージは人の好感を引き出し易い効果がある。そして、人とリアルタイムで対面での向き合い方が最も直接的であり、お互いに伝える感情も最もリアルである。

3.2.2 漢服を楽しめる体験

この体験はプライベートな空間の中で行う。体験空間は1-2人が収容できるサイズがあれば良い。体験空間の内部は仕切りで、2つの部分に分かれている。仕切りの後ろには隠れた walk-in 式のクロークルームがあり、もう一つの部分は中国風に作られた快適な漢服体験エリアである。

漢服体験エリアの正面はスクリーンとカメラで構成する多機能壁である。この壁は空間内部と外部にそれぞれ一面のスクリーンを設置しており、内部でも外部でも中間より上方の位置に隠しカメラを設置して、私たちが日常的に使っている携帯電話やノートパソコンのディスプレイのようなものだ。この壁は二つの状態がある。

一つの状態は、鏡として使う。体験者が自分の漢服姿をチェックできるように、スクリーンとカメラが自撮り機能と同じ仕組みである。この時、壁が遮断している状態で、外から空間内部の様子が見えないようになり、空間がプライバシー万全の密室のような状態である。

もう一つの状態は、一面の透明ガラスとして使う。空間内部を外と繋がり、体験者が開放的な環境にいるように、空間外部の人とリアルタイムでインタラクションができる。

また、多機能壁のシステムに漢服の着付け、ヘアスタイル、写真ポーズの指導、又は、環境の光や温度の調節を要求することもできる。そして、漢服体験エリアの中で、多機能壁の他にも幾つの隠しカメラが設置されており、違う角度から撮影するのは可能である。更に、すべてのカメラが美顔効果がついている。

漢服体験エリアの後ろのクロークルームには、各種類の漢服とアクセサリーが置いてある。体験者は好きな漢服とアクセサリーを選んで、ここで着替えを行う。また、公衆漢服が異なる人に着用された場合の匂いや清掃の問題を解決するために、体験が終わった後に消臭スプレーで消毒する。

3.2.3 三段階の体験

漢服を着用することに対するメンタル面での問題を克服するために、この漢服着用体験が三つの段階の体験を提供する。

step 1 : プライベートな漢服体験空間の中で、鏡で漢服を着用している時の自分を見て自分の漢服姿を段々慣れ、美しい写真を撮ることによって、自分がだんだん盛り上がって、少し自信を身に着ける。

step 2 : 自分の意思で、体験空間を外と繋がり、街にいるような感覚を感じて、漢服を着用しているだが、顔がアプリのような特殊効果で隠されている状態で他人とインタラクションをする。そして、他人の笑顔や褒め言葉などのポジティブな反応を通して自己満足を達成する。

step 3 : 最終的に、漢服を着用している姿のまま他人と接触することに慣れたら、体験空間から出て、顔を隠さず人通りの多い場所で漢服を着用しても構わない効果を達成する。

第 4 章

実装と検証

4.1. 空間の実装

まず、漢服に合った空間を作るために、簡易つっぱり棒で一辺幅 1.5m、高さ 2m の空間を作った。そして、壁として、伝統的な中国の赤色の布を沢山使うことにした。更に、赤色のベースで白と金色の布で飾って、上品で華やかな雰囲気演出することにした。布の仕切り方には、同じ布を二枚で一面を組み、中央から分けることができる形にした。その一方の壁には真っ赤な壁紙が貼られ、壁紙には中国の伝統的な窓の様子が印刷されており、窓の外には竹があり、人に優雅な印象を与える。床は濃い茶色の木目調のジョイントマットを選んだ。(図 4.1)

小道具は、隅に中国の赤い提灯を掛け、壁にはすだれと中国の古文の書道作品を掛け、また、中国の紙傘、扇子を用意し、花びら、書道作品、ろうそくを置いていた。防火安全のために、ろうそくは 100 均で購入した電子キャンドルを使用していた。(図 4.2)(図 4.3)



図 4.1 体験空間の様子



図 4.2 道具の様子 1



図 4.3 道具の様子 2

試着室の中で漢服を3着用意し、合わせたアクセサリを体験者に選んでもらいました。うち2着は女性向けにデザインされたキュンチスカートと、黒白の衣装が男女共通のデザインとなっている。ニオイや清掃処理の問題で消臭消毒スプレーを購入した。(図4.4)¹

1 [出典]PLAY 谷さんがシェアしてくれた写真。



図 4.4 外から見る着替え室の様子

4.2. 連動システムの実装

体験空間のスクリーン壁を実現するために、私はカメラ付き携帯電話一台、プロジェクターとスクリーンをセットで2セットを用意した。空間内部に設置する機材を全部 A と呼ぶ。空間内部に設置する機材を全部 B と呼ぶ。そして、すべての機材を以下の図のように組み立てる。(図 4.5) (図 4.6)

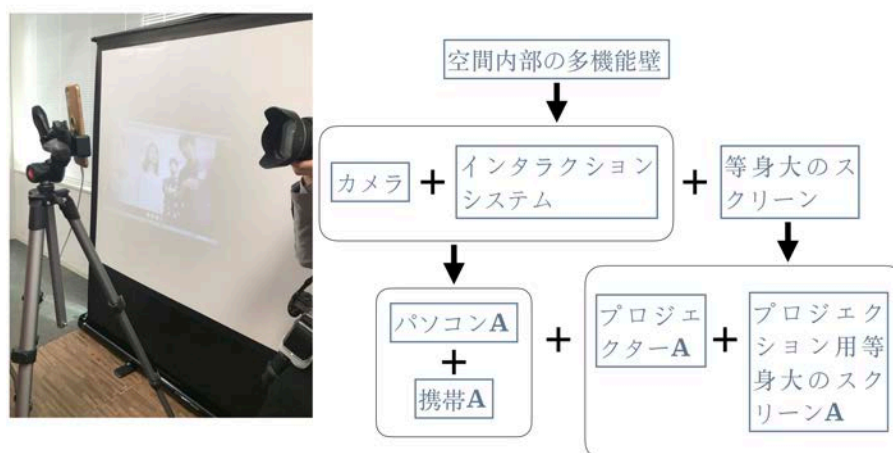


図 4.5 空間内部のインタラクションシステム

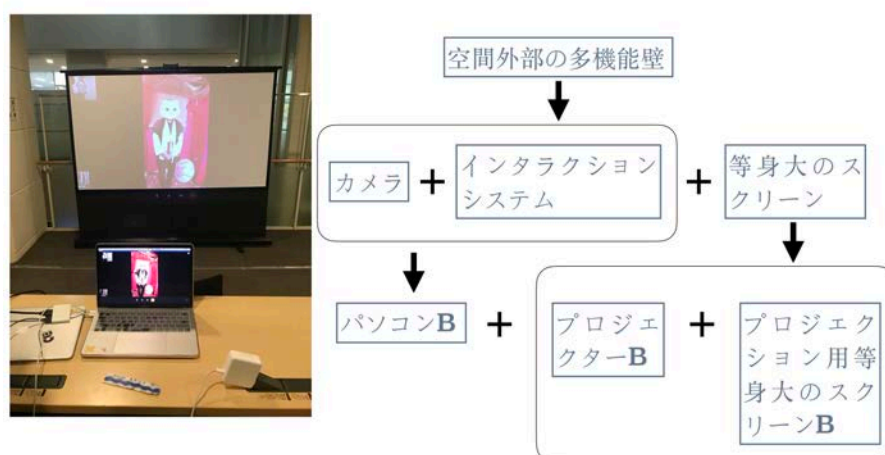


図 4.6 空間外部のインタラクションシステム

顔遮蔽機能は LINE の携帯電話バージョンのみで利用可能だから、携帯電話が必要である。画像をお互いに伝送するために、一部の携帯電話と二台のパソコンがそれぞれ一つの LINE アカウントを登録して一つのグループに入る。

空間内部が空間外部と繋がり、インタラクション機能を実現する原理は以下の

図の通りだ。(図 4.7)

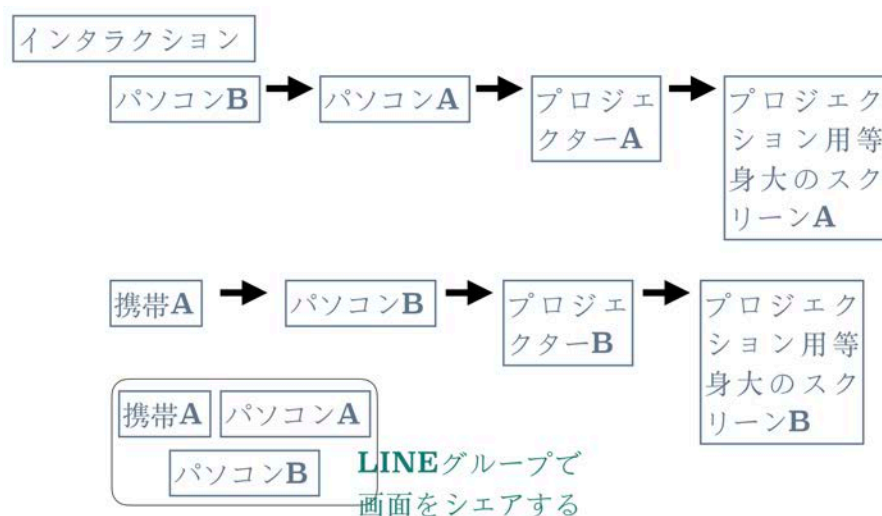


図 4.7 インタラクションの状態

パソコン B のカメラが空間外部の状況を撮影する、そして、外部の画像を LINE グループを通して空間内部のパソコン A に転送する。パソコン A が空間外部の画像を空間内部のプロジェクター A を通して、空間内部のスクリーン A に投影する。

空間内部に設置している携帯電話 A が空間内部の状況を撮影し、顔遮蔽機能で体験者の顔を隠す。そして、加工した画像を LINE グループを通して空間外部のパソコン B に転送する。パソコン B が空間内部の画像を空間外部のプロジェクター B を通して、空間外部のスクリーン B に投影する。

鏡の機能を実現する原理は以下の図の通り、空間内部のパソコン A のカメラが空間内部の状況を撮影し、アプリの美顔効果で体験者の顔を加工してから、プロジェクター A に画像を送り、スクリーン A に投影する。(図 4.8)

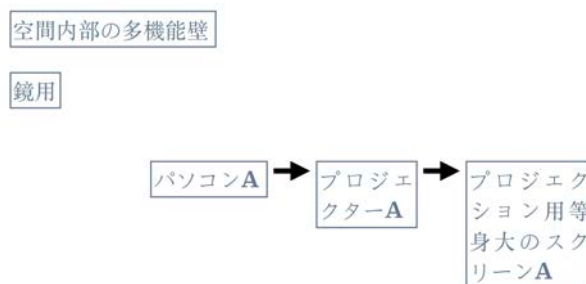


図 4.8 鏡の状態

4.3. デモンストレーション展示と実験検証

KMD Forum 2019 においてデモンストレーション展示を行った。KMD Forum 2019 とは、2019 年 11 月 2 日に慶應義塾大学日吉キャンパス協生館にて開催された研究成果を発表するオープンハウス型のイベントである。

実験の場所として、空間外部の装置は KMD Forum の主会場となる協生館の 2 階に設置した。そして、プライベート体験空間は協生館の 3 階の S03 教室の中に設置した。今回のデモンストレーション展示の参加者は 8 人で、その中、有効ターゲットは 4 人だった。この 4 人は全員漢服に興味があって、漢服経験なしである。今回の展示は以下の流れで行う。

1、まずは、2 階のプロジェクト「覗き穴」の展示により、来場者にこの漢服体験をビデオの形で紹介する。今回展示では、体験空間が一体となっていないので、興味を持っている来場者に 3 階への案内が必要だ。

2、3 階の漢服体験空間に来る被験者を招待し、漢服の着用に関するインタビューをしながら、被験者の表情や行動を観察する。体験の流れを簡単に説明した後、被験者が好きな漢服を選んで、着替えする。そして、体験システムの補助指導機能の代わりに、私が体験者に漢服の着付けを教え、髪形を結う。同時に、体験者の変化を観察する。

3、被験者にまずはステップ 1 から体験させ、被験者の表情や行動の変化を観

察する。また、被験者の需要に応じ、体験システムの代わりに、私がポーズの指導を提供する。

4、被験者の変化によって、ステップ2に入るかどうかを聞く。被験者が同意すれば、ステップ2に入り、また変化を観察する。被験者が断った場合、被験者の願望の次第で体験が終わり。

5、また、被験者の変化によって、ステップ3に入るかどうかを聞く。まずは、一人で顔を隠せず、漢服を着用している姿のまま外に出れるかを聞く。断った後に、他の漢服を着用している人と一緒に外に出かけようとする。被験者が同意すれば、ステップ3に入り、人通りの多い2階に行く。被験者を観察し続ける。被験者が2問を全部断った場合、被験者の願望の次第で体験が終わり。

6、被験者の意思で体験を終わらせた後に、もう一度インタビューをしながら、被験者の表情や行動を観察する。

4.4. 実験の結果

被験者 A、B、D はステップ 1～3 を全て体験した。被験者 C はステップ 1 だけを体験した。それぞれの被験者の結果を以下で説明する。

4.4.1 被験者 A

中国、女性、漢服経験なし。ステップ 1～3 を全て体験した。気になるポイント：「いつも洋服を着るから、自分が漢服に合うかどうかは心配です。漢服を着用することを考えたこともないけど、漢服は綺麗だから、今回着用してみたいです。」

最初に、彼女の表情はやや緊張感があった。「初めて漢服を着るので緊張しています。」と彼女は言った。漢服を着た後、「鏡で自分の様子を見たい」という願望はあった。

ステップ 1：彼女はポーズに悩んでいたが、私の指導を従って、写真が綺麗に撮った。彼女は写真を見て満足し、笑顔が出た。後のインタビューで自分に自信を持ったと答えた。(図 4.9)



図 4.9 被験者 A : ステップ 1

ステップ 2 : インタラクションをした時、顔が隠されることを知って、結構リラックスしている表情でインタラクションをした。

ステップ 3 : 1人で2階に行くのは恥ずかしいけど、私が付き合うなら大丈夫だと言った。2階で歩く時、また緊張感が出た。そして、彼女は扇子で顔を隠す行為はあった。最後に、インタビューをした後、他人に褒められて、予想より楽しかったという結果が分かった。

4.4.2 被験者 B

中国、女性、漢服経験なし。ステップ 1～3 を全て体験した。気になるポイント : 「目立つになるのは苦手、見知らぬ人の前で自己表現はしません。漢服が好き、一緒に漢服を着る友達がいなし、漢服を着るチャンスもないです。」

彼女は最初に二階で体験するかどうかについてちょっと悩んでいたが、「すぐ三階で体験できるのは便利だ」と考え、結局「漢服に興味があるから」漢服を着用してみようと思った。彼女は男子の漢服を選んだ。

ステップ 1 : 自分の格好を見て、とても満足で、「友達に自分のかっこいい様子を見せたい」と言った。しかし、「見知らぬ人に見せるつもりはないです。」のも

言った。道具の扇子をずっと持っていたので、とても好きのようだ。(図 4.10)



図 4.10 被験者 B : ステップ 1

ステップ 2 : インタラクションの時、顔が隠されていたので、カメラに撮られ、他人に見られても全然平気だと言った。

ステップ 3 : 彼女は自分の格好にとっても満足しているので、抵抗なく、2階に行くことを同意した。多くの人「かっこいい」「似合ってる」などの言葉で彼女を褒めた。彼女はやや盛り上がった。最後、彼女は「今後も男子の漢服を着てみよう」と、とても満足した表情で言った。

4.4.3 被験者 C

中国、男性、漢服経験なし。ステップ 1 まで体験した。気になるポイント : 「自分が漢服に合わないかもしれません。でも、漢服が好きだから、一度着用してみたいです。」

ステップ 1 : 着替えした彼は漢服体験エリアに移動した。「環境が素晴らしい」、「色々な道具も面白い」、「美しい雰囲気が出た」と言いながら、リラックスしたみたい、傘や扇子や筆などの道具を持って写真を撮った。彼は綺麗な笑顔が出た。

しかし、彼はインタラク션을せず、写真を撮るだけで体験が終わった。最後はとてもしラックスしていた。彼も面白い写真を撮ったので、十分満足だったと言った。(図 4.11)



図 4.11 被験者 C : ステップ 1

4.4.4 被験者 D

中国、女性、漢服経験なし。ステップ 1～3 を全て体験した。気になるポイント：「漢服を着用することを考えたこともないけど、今日の参加者を見て、みんなの漢服姿が綺麗だから、自分もちょっと着用してみようと思いました。漢服に合うかどうか心配しています。」

漢服を着たことはなかったが、漢服が好きなので、彼女の表情は少々不安だった。そして、色々な漢服とアクセサリーを選ぶ時、彼女は「こんなに綺麗な服とアクセサリーを選べるなんて、興奮するわ。」と言った。

ステップ1：写真を撮る時、彼女もポーズに悩んでいたが、私からアドバイスを貰った後、彼女はいいテンションのまま写真を撮った。

ステップ2：インタラクションをした時とてもポジティブな感じで、沢山のひととインタラクションをした。彼女はよく手を振ったり、ピースやハートをしたたりした。(図 4.12)



図 4.12 被験者 D：ステップ2

ステップ3：そして、彼女も一人が嫌で、私と一緒に2階に行けた。実際に行ったら、「不安な気持ちは消えた。隣に友達がいるから安心した。」と言った。

4.5. 実験の考察

4.5.1 全体について

全ての被験者が外に出る勇気までは出なかったが、被験者Cを見る時点で、全員がステップ1のプライベートな空間で美しい写真を撮れることは被験者の自信に繋がった。

被験者Dを見ると、ステップ2のインタラクションでのポジティブにする人は更に自信増加した。

ステップ3で被験者にまず、一人で顔を隠せず、漢服を着用している姿のまま外に出れるか聞いた後に、漢服を着用している人と一緒に外に出かけようと思った。3人とも一人では抵抗があったが、他の漢服を着用している人と一緒に複数であれば外に出た。

また、ターゲット以外にも、自信満々で積極的な人、女装する人、漢服を着用する経験がある人、外国籍の人などの参加者にもこの体験を楽しんで貰えた。

4.5.2 漢服の着付けや髪形のサポートについて

すべての体験者が初めて漢服を着ていることから、漢服を知っているスタッフが漢服の着方を教えてくれたことが体験過程全体に大きな便利さをもたらした。体験者や通りすがりの来客から、髪型まで手伝ってくれるというサプライズもあった。

更衣室選びの過程で、特に女性は、選ぶことが多いため、日常生活の中で服装やアクセサリを選び、丁寧に自分をおしゃれしているような楽しさも表現されている。

中には漢服を着て自分がどんな姿なのか気になる体験者もいたが、着替えて完成した後に鏡を見て、自分の姿を見たいという体験者もいた。そのため、空間内部で鏡機能を提供するニーズも検証されている。

4.5.3 体験空間の環境について

多くの女性体験者は、体験空間を見たばかりのときに興奮した表情をしており、それぞれの体験者はシーンが中国の伝統的な感覚を感じていると感じている。3階を通る来客でさえ、漢服は体験したくないが、組み立てられた体験空間に興味を持ち、野次馬に来て撮影することもある。しかし男性体験者の表現は相対的に落ち着いている。

しかし、撮影中に空間構築の主体となる白い金属の質感伸縮棒が環境の雰囲気と合わないことが分かった。赤い背景布を使って遮ろうと試みましたが、布が柔

らかいため、固定するのが難しく、テープでくっつけることで粘度が失われて離れ、白い棒が出てくる。だから、シーンの細かいところはまだ改善しなければならない。

また、実験中は、空間に入った人数が予定の1～2人よりオーバーした場合もあったので、組み立てられた棒がずれてしまうことがあり、空間が崩れそうになったことを体験するため、空間の安全性などの対策も考慮する必要がある。

4.5.4 ステップ1の写真を撮る過程について

体験者は最初から硬く、恥ずかしがり屋であり、また、ほとんどの体験者がどのようなポーズをすれば美しい写真が撮れるのかという問題があった。コスプレ経験者の1人は携帯電話でインターネット上の画像から自分の好きな動作を選び、それ以外の体験者は漢服を着用した経験豊富なスタッフが動作を指導して撮影した。(図 4.13)



図 4.13 体験者がステップ1を楽しんでいた様子

撮影道具の中では、扇子が愛されている。軽いだけでなく、すべての体験者がうちわの模様を表現しているのも、女性が使うと温かみがあり、扇子を使うと素敵に見える。

予想とは異なり、一部の体験者は、自分が写真を撮るよりも、友達とのインタラクションが好きであり、自分の美しい一面を友達に見せることが好きであり、見知らぬ人の意見よりも、友達から褒めてもらいたいという意見があった。他人と交流する必要もなく、友達と写真を撮りたいという思いもなく、漢服を着た後に自分がきれいな写真を撮って満足してほしいという体験者もいた。

4.5.5 ステップ2のインタラクションについて

多くの体験者は、最初は体験空間が半開放状態で2階の人が自分の姿を見てい
るのではないかと非常に気にしていたが、自分の顔が遮られていることを知った
とき、体験者は確かに安心感があり、猫の絵柄が非常にかわいいことを示してお
り、自分が猫になっていることが大好きであった。(図 4.14)



図 4.14 ステップ2の様子

また、体験者が写真を撮る過程では、多くの動作が初めてであるため、自信がなく、照れている場合や、体験者が体験空間を出て、人が多い2階に行ったときには、緊張したり、恥を感じたりして、一部の女性の体験者はうちわで顔の一部を遮るようにしている。したがって、当初、被験者の顔を遮るために扇子を利用しようとしていた機能設計が実験的に検証されたことは確かである。

4.5.6 ステップ3の二階に行く挑戦に関して

多くの体験者がプライベートな体験空間内で気分が高まっていることを観察し、漢服に慣れてきたときには、体験空間を出て外の人と接するように要求した。一部の女性体験者は、最初は緊張や不安を表出し、婉曲な拒否を示していた。そして、私は一緒に同行することを提案し、また、ばつが悪くなったら、扇子で顔を遮ることができるという条件を提出し、すべての体験者は最終的に2階に漢服を着て現れるなど公共の場での挑戦を受けました。そこで、システムが体験者に外界の他者に触れるタイミングや方法を提示することが重要であることが分かった。

また、移動中に歩行者が参加してハンディウェアを着ていることを褒めてくれたり、体験者が照れ笑いをしたりすることがある。時間が経過した後、すべての体験者の気持ちが明らかにリラックスし、確かに以前ほど緊張していなかったこと、また、着る前の気持ちに比べて、漢服を着た体験が確かに自分の気持ちを楽しくしたことを示し、将来可能であれば再び漢服を着用したいと述べた。

複数の人が同行すれば、小さな団体ができて、安心したという体験者もいた。

第 5 章

結 論

5.1. 結論

今回のデモンストレーション展示と実験では、「プライベート空間は漢服を着用し易い環境である」ことを検証した。今回、ターゲット層以外の参加者もいったが、みんなの表現とインタビューした結果から見ると、「漢服を楽しめる体験」も成立した。漢服のイメージに合った環境で写真を撮るのも確かに自己の美的感覚と自信に繋がる。

そして、実験の結果によると、ステップ1の「自己を表現したいという欲望を引き出す」効果もあった。すべての被験者がステップ3まで行ってないが、すべての段階を体験した他の3人から見て、「顔を隠す状態」では確かに安心感が生まれる。

初めての体験でステップ3まで一人で行くのは難しいが、2人以上の集団で行動し易い効果が検証され、漢服を着用する行為に慣れるまでは、友達や漢服愛好家との交流が大事であることも分かった。

5.2. 今後の展望

本論文はプロジェクト全体の第一歩にすぎず、今後も多くのやりたいことが望まれている。

もともと漢服活動に注目していない、自主的に漢服体験館に行かない人に漢服を着用するきっかけを作るために、日本のプリクラ写真機や中国のシェア化粧室のように、この体験空間を日常の至るところまで設置する必要がある。また、利

ユーザーが繰り返し利用する積極性を高めるためにも、便利なところで大量な体験空間を設置すべき。

そして、「友人とインタラクションをしたい」というコメントが多いので、将来、体験システムに SNS 機能を追加することも考えられる。

最後、体験者により素晴らしい体験を提供し、自信向上の効果を高めるために、空間の中でもっとテクノロジーを使うことも検討する。

謝 辞

本研究の指導教員であり、幅広い知見からの的確な指導と暖かい励ましやご指摘をしていただきました慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科の稲蔭正彦教授に心から感謝いたします。

研究の方向性について様々な助言や指導をいただきました慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科の加藤朗教授に心から感謝いたします。

研究指導や論文執筆など数多くの助言を賜りました慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科の砂原秀樹教授に心から感謝いたします。

参 考 文 献

- [1] 華梅. 漢服は中国人の国服になりるか? 人民日報海外, 2007.06.14.
- [2] 周星. 新唐装、漢服と漢服運動——二十一世紀初期中国は「民族衣装」の新動態. オープン時代, 2008.03.
- [3] 張夢コウ. 漢服略考. 国語建設通信, 2005.
- [4] 華梅, 施潔民. 中国服装史—五千年の歴史を検証する—. 白帝社, 2003.04.
- [5] 孔定芳. 清廷剃髮易服明遺民との抗争. 江蘇社会科学, 2013.05.
- [6] 華梅. 服飾と中国文化. 人民出版社, 2001.
- [7] 海保博之. 自己表現力をつける. 日本經濟新聞社, 1997.05.
- [8] 相旭東. 心理誘導技術. 中国書籍出版社, 2015.08.
- [9] 久保友香. 「盛り」の誕生. 太田出版, 2019.04.